

令和5年度 学校評価報告書(自己評価書・学校関係者評価書)

令和6年2月7日作成

中期目標	重点努力目標(評価項目)		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 (★学校関係者評価を受けて)
学び方改革(自ら考え、共に学ぶ) 問題解決的な授業の実践	自ら学ぶ ～個別最適な学び～	・自ら「問い」を見つけ、「探究心」をもって追究することができる生徒を育てる。	A	A	・個人追究や級友と話し合いをするような活動を楽しんでいる生徒が多い。また、タブレットを活用したり映像を用いたりする機会が増え、工夫のある授業が展開されていると実感している生徒、職員が多い。これらは昨年まで取り組んできた学習活動の研究の成果が継続され、定着しているものと考えられる。	A	・生徒も教師も楽しく授業を行っている。ICTの活用はあたりまえになってきた。体験的な学習なども含め、さらに学力向上を目標としている。	・現在の学習スタイルを今後も続けながら、改善や工夫を重ね、「令和の日本型学校教育」の実現を目指していきたい。 ・生徒が確かな学力を身につけられるよう、授業力など教師のスキルアップを更に図っていく。
	共に学ぶ ～協働的な学び～	・「対話」や「話し合い」を通して交流し、互いに学び合うことができる授業を実践する。	A					
	学びを深める ～主体的・対話的で深い学び～	・「自分の考え」を深め、「新たな考え」を創り出し、生活に生かすことができる授業を展開する。	A					
みんなが参加し、みんなが輝くことのできる 生徒主体で活力のある学校	自ら気づく ～一隅を照らす～	・「あたりまえ」に見える形にして、自分の役割を精一杯果たすことができる生徒を育てる。 ・感性を磨き、正しい心、善き心、美しい心(真善美)に気づける生徒を育てる。	A	A	・体育祭や合唱コンクールなどの学校行事は、生徒会や実行委員が主体となって立案・運営することができた。各行事で実行委員を志願する生徒も年々増え、役割を果たす責任感や挑戦することの喜びを感じている。さらに職場体験や本陣まつりなど地域の人々や施設を利用した活動が復活し、生徒がいそいそと活躍する姿が随所に見られた。 ・働くことや将来の夢の実現に向けての生徒の取り組みが、保護者の実感につながっていない部分がある。	A	・大きな行事が復活し、生徒が自分たちの力で行事を成功させていたのが印象的だった。 ・地域には公共施設や大手の企業がたくさんある。また伝統行事など教育資源も多い。それらを教材として活用している。	・授業ではもちろんのこと、各行事や部活動などあらゆる場面において生徒の個性や潜在能力を伸ばすチャンスをつかえ、主体的創造的な活動を推進する。 ・部活動も含め生徒一人一人が活躍する場の提供とともにその姿を家庭や地域へと広げ、三位一体となって生徒を育成していきたい。
	共に高め合う ～リッチ～	・生徒が考え生徒が主体となり、みんなで協力することができる活動を推進する。 ・地域に学び、地域と共に成長する生徒を育てる。	A					
	みんなで輝く ～夢と志は自分を変える原動力～	・誰一人置き去りにしない持続可能な社会を創り出すことができる活動を推進する。 ・志を立て、自分の夢の実現に向けて挑戦を続けることができる生徒を育てる。	A					
みんなが安心して、みんなが楽しく過ごすことのできる思いやりのある学校	自分らしさを認めあう「居場所」をつくる	・教室を「安心・安全な場」にして、「ありのままの自分」を認め合うことのできる文化を築く。 ・「困難を抱えている子」の問題のありかを知り、「適切な支援」をする。	B	B	・道徳をはじめ、ふだんの授業では生徒の発言を大切にし、お互いの意見を聞き合うことに努めている。さまざまな場面で優しさや思いやりを発揮する生徒が多いと見受けられる。 ・教師による生徒への指導や対応について、保護者の理解が得られないケースもあった。日常の情報発信やこまめな連絡を通して学校教育方針の周知に努めた。	B	・不登校生徒数がなかなか減らない。何(地域性など)が原因なのかを分析した方がよい。 ・家庭への配付物にいつも学校HPのQRコードをつけ、情報発信するとよいのではないか。	・生徒、保護者ともに「二川中学校に通ってよかった」と思えるように、授業の充実、行事の創意工夫などを行う。また、生徒の多様性に対応し、一人一人が安心して学校生活が送れるよう思いやりの心で支えていく。 ・生徒や家庭の願いを受け止め、よりよい環境を整えるよう、外部機関との連携を図る。
	自らの道を自分らしく歩める場をつくる	・「対話」して互いの違いを理解し、「思いやり」と「感謝の心」で行動できる優しい心を育てる。 ・心を磨き、考えて行動し、自分の行動や言葉に責任をもち、やり直しができる生徒を育てる。	A					
働き方改革(共に学ぼうの姿勢)で、言行一致と率先垂範の励行	授業力の向上 ～共に考え、共に学ぶ～	・「愛情」と「誠実さ」で生徒と向き合う。 ・教師が火種となり、生徒の心に火をつける。	A	A	・為成会(現職研修)を定期的に行い、授業力をはじめ教師力に磨きをかける取り組みを継続している。その成果から84%以上の生徒が授業は楽しいと回答している。 ・昨年度よりも在校時間が減少している職員がいる一方で若手教師の在校時間がなかなか減らない。	B	・先生たちがいろいろな研修を受けて、力量を高めていることがわかった。その努力を家庭や地域にもっと伝えられるとよい。	・学校生活の様子を積極的に広報して、保護者や地域の理解と協力を得たい。 ・生徒や保護者から信頼される学校、教職員を目指して、自己研鑽や合同研修に励む。
	人間力の向上 ～謙譲の精神で、徳を磨く～	・下問を恥じず。柔軟な思考と果敢な行動力で改革をすすめ、勤務時間外在校時間を減らす。 ・「時を守り 場を清め 礼を正す」を励行し、「あたりまえ」に見える形にする。	B					

【自己評価 A:十分に達成されている B:概ね達成されている C:あまり達成されていない D:ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに上記のA・B・C・Dで評価】

【関係者評価 A:適切である B:概ね適切である C:あまり適切ではない D:適切とは言えない】